

抗 議 文

地下鉄サリン事件から30年が経過し、被害者や遺族はいまだに苦痛に悩まされている。そんな事件を忘れたかのように上祐は、月刊誌上の対談で、まるでオウム真理教の部外者のように、自分はサリン事件とは関係ないと言っている。地下鉄サリン事件の時に日本にいたなら、関与をしないという訳にはいかなかったはずだ。ロシアに居た上祐は、紙一重の差で死刑囚と差が付いたのである。

生き残ったオウム真理教の元最高幹部 上祐が、未だ烏山で活動している。麻原の指示どおりに教団を分裂させ、麻原から脱却したかのように振る舞い続けても、我々は信じない。

麻原から脱却したと言うなら、オウム真理教のようなセミナーや聖地巡礼活動は止めて解散すべきである。信者達も自分たちの行く末を思い悩んでいるだろう。いつまでこのような生活を続けるのか。上祐の決断次第で解散はすぐにできる。それぞれが新たな道を選んでもう一度やり直すには、早いほうがいい。

今後も「ひかりの輪」が、このまま活動を続けるのであれば、我々は解散・解体するまで粘り強く闘うことを宣言する。

令和7年5月10日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会

会 長 古 馬 一 行